

プロフィール

【ファシリテーター】



にしむら ゆうや
西村 勇哉 氏（特定非営利活動法人ミラツク 代表理事）

大阪大学大学院にて人間科学（Human Science）の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future we already have（既に在る未来を手にする）をテーマに、社会起業家、企業、NPO、行政、大学など異なる立場の人たちが加わる、セクターを超えたソーシャルイノベーションのプラットフォームづくりに取り組む。

【パネリスト（50音順）】



おきの ひろふみ
沖野 宏文 氏（協働推進員／滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課）

健康医療福祉部の協働推進員（県と多様な主体との協働を進めるため、協働に関する助言や対話の場のコーディネートなどを行う職員）であり、地域の行政セクターとして滋賀の地域円卓会議にも参加。民間セクターでの経験に加え、湖南市派遣職員としての経験も持つ。また、プライベートでも積極的にNPO・市民活動に参加し活動の幅を広げている。



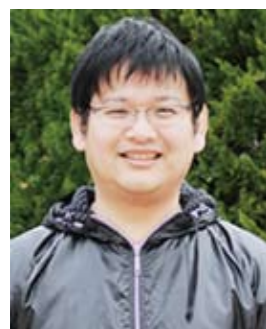
かわむら みつこ
川村 美津子 氏（特定非営利活動法人集 理事長）

銀行員、酒屋、ヘルパー、ケアマネージャー、社協職員を経て地域づくり協議会福祉保健部会で活動をする中、もっと柔軟に自分たちでできることがしたい、とNPOを設立。介護保険事務所の運営や福祉農園づくりに取り組み子どもから高齢者、障害者、育児中の人など、住民の全体の顔が見える事業を展開中。地域から魅力発信と雇用の場を作る、きんたろう村づくりをプランニング中。団体の売りは色々な方と「つながる」こと。



きただ まさき
北田 真規 氏（三重県梶賀町 漁師／物語力出版 代表）

郵便局員を退職し旅へ。全国を回り、三重県で観光旅館にアルバイトで入社、その後、副支配人、企画部長に就任。宿泊施設、観光地への集客には、地域そのものの活性化とブランディングが必要である、との自論から積極的に地域と交流し、地域色豊かな商品や旅館開発を展開。その後、独立。「地域の、今、価値のないものに新しい価値を生み出す」ビジネスモデルのプランナーとして滋賀県でNPO活動に従事。現在は、三重県で漁師として活動中。



ふかお まさたか
深尾 昌峰 氏（公益財団法人 京都地域創造基金 理事長／内閣府 共助社会づくり懇談会 委員）

学生の頃に会ったボランティア活動や阪神・淡路大震災を契機に「ボランティア」や「市民活動」に携わる。大学院在籍時に特定非営利活動法人きょうとNPOセンターを立ち上げ、事務局長に就任。以来、京都地域創造基金の創設や、きょうとNPOセンターで「もっと自分達はやれる」をキーワードにラジオ局を作るなど、京都を中心とする市民活動基盤整備に奔走。龍谷大学政策学部准教授。

社会をよくするために

みんながつながる、 これからの「まちづくり」

～福祉と農業、そして人々をつなぐコミュニティビジネスの事例をとおして考える～

主催：内閣府・滋賀県

共催：淡海ネットワークセンター

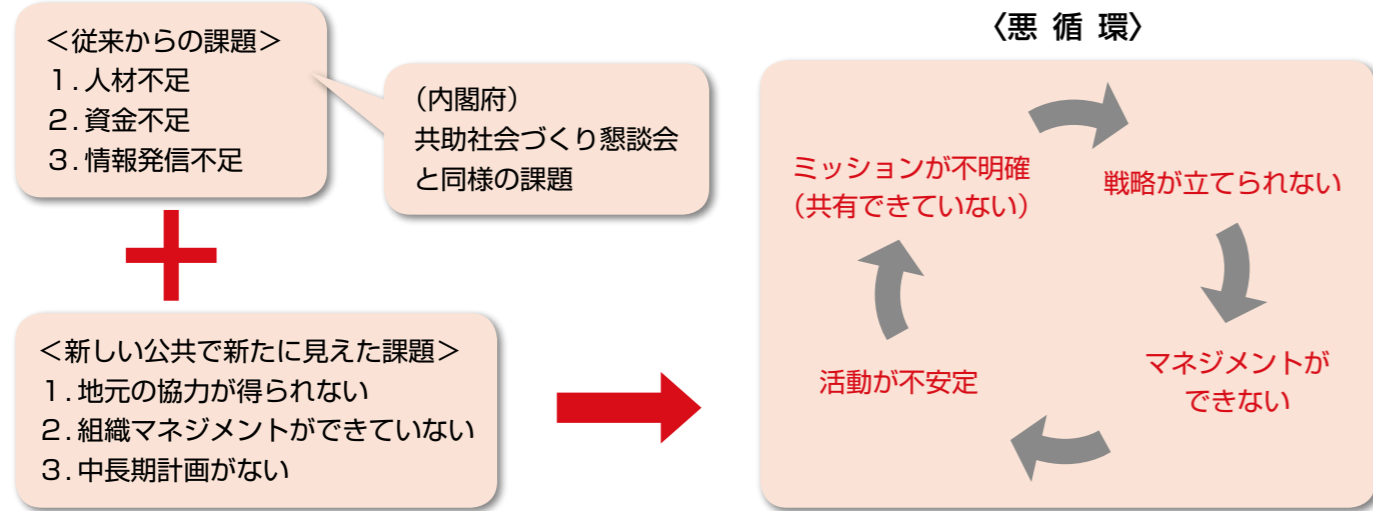
本日のプログラム

全体司会：遠藤恵子（淡海ネットワークセンター）

13:30-13:35	開会あいさつ 滋賀県総合政策部長 北川 正雄
13:35-13:50	基調報告 「共助社会づくり懇談会における主な議論」 内閣府政策統括官（経済社会システム担当）付 参事官（市民活動促進担当）付 参事官補佐 坂井 潤子
13:50-14:20	基調講演 「地域で困っている人を助けるために、どうつながっていくか」 公益財団法人京都地域創造基金 理事長／ 共助社会づくり懇談会 委員 深尾 昌峰
14:20-14:50	事例報告 「つながりで支える地域福祉に根差したNPO活動と農業を生かしたコミュニティビジネス」 特定非営利活動法人集 理事長 川村 美津子
14:50-15:00	休憩
15:00-16:30	パネルディスカッション 「社会課題解決のために、いかに『つながり』を生み出すか」 【ファシリテーター】 特定非営利活動法人ミラツク 代表理事 西村 勇哉 【パネリスト（50音順）】 協働推進員／滋賀県健康医療福祉部健康福祉政策課 沖野 宏文 三重県梶賀町 漁師／物語力出版 代表 北田 真規 特定非営利活動法人集 理事長 川村 美津子 公益財団法人京都地域創造基金 理事長／共助社会づくり懇談会 委員 深尾 昌峰
16:30	閉会

滋賀の地域円卓会議

新しい公共支援事業（平成24・25年度）で見た課題



悪循環を解決するために、各セクターからなる「滋賀の地域円卓会議」という枠組みを組織。

- ・ビジネス分野の中間支援（産業支援プラザ）
- ・福祉分野の中間支援（県社会福祉協議会）
- ・NPO分野の中間支援（淡海ネットワークセンター）
- ・市町行政、県行政

からそれぞれ委員が入って、地域の本当の課題やうまく事業を展開していくために必要なことを議論。

具体的な事例をもとにして

- ・いかにつながりを生むか
- ・必要なセクターをどうやって見極めるか
- ・必要な役割分担
- ・資金獲得の考え方 などについて、

共通キーワードを抽出し、事業の継続に必要なスキルや人材像の輪郭を描いていく。

実施状況

- 平成25年度
 - ・第1回（H26.2.12） 淡海ネットワークセンター
 - ・第2回（H26.3.19） 滋賀県平和祈念館
- 平成26年度
 - ・第3回（H26.6.24） 淡海ネットワークセンター
 - ・第4回（H26.10.31） 長浜～西黒田地区～

→ 各回の開催の概要は右ページを参照。

名前	所属
深尾 昌峰	龍谷大学政策学部 准教授 (公財) 京都地域創造基金 理事長 (特非) 京都NPOセンター 常務理事
北田 真規	三重県梶賀町 漁師 物語力出版 代表
西村 勇也	(特非) ミラツク 代表理事
山口美知子	東近江市まちづくり協働課 (一社) kikito
沖野 宏文	協働推進員 滋賀県健康福祉政策課
谷口 郁美	(社福) 滋賀県社会福祉協議会
船越 英之	(公財) 滋賀県産業支援プラザ
遠藤 恵子	淡海ネットワークセンター

委員（コアメンバー） 座長……深尾 昌峰

第 1 回

- 話題提供
 - ・深尾昌峰氏「共助社会づくりについて」 / マイママ・セラピー 押栗泰代氏「街の保健室の取組について」
- 共通キーワード
 - ・自治体と市民・社会とのコミュニケーションツールが不足
⇒本質的な地域の課題を自治体が認識していない。
 - ・フォーマルとインフォーマルをつなぎ、意見が言える場（例：円卓会議、ビジネスカフェ）づくりが必要
⇒円卓会議が地域にどう作用していくか、を見るため、次回は東近江市で試験的に実施。

第 2 回

- 事例
 - 若者の就労支援について
- 参加したステークホルダー
 - ・(株)和える(事例報告)、(株)農楽、働き暮らし応援センターTekito、地域若者サポートステーション、東近江市いきいき支援課、商工労政課、社会福祉課、まちづくり協働課
- 共通キーワード
 - ・若者就労支援のサポートステーションが津市にしかなく、東近江地域からは遠い。
 - ・「相談は恰好悪い」という地域性
 - ・発達障害の子どもに対する支援が課題。
 - ・就労支援としての地域のコミュニティービジネス=中途半端な働く場所の必要性
⇒ナラ枯れの木を薪として割る作業やニンジンの皮むき等の中間的就労が重要。
 - ・仕組みを作って情報を流すだけでは、通り過ぎてしまうだけ。
 - ・それぞれが素晴らしい仕事をしている人はたくさんいるが、そのままだと点で終わってしまう。
⇒点と点を結び、線や面にして(=ネットワークの見える化)、わかりやすく伝えていく人材が必要。

第 3 回

- 共通キーワード（前回の円卓の振り返り）
 - ・第2回の円卓会議後、円卓会議がきっかけとなり東近江市に就労支援のプロジェクト会議が発足。
 - ・目利き人材、プロデューサー人材（スーパー公務員）が必要。
 - ・単純に外から見て、関係者だと言えないような気づきみたいなことをしてくれるよそ者の存在が大切。
 - ・福祉のことを福祉分野のみで解決しようとするため、議論されつくしているし、行政でできることはやってきている。
 - ・福祉は制度にあることをやるのが仕事であり、制度外やグレーゾーンにいる人を何とかしないとイケないのは分かっているが、どうしていいのか分からないというのが最大の悩み。そこに誰が手を差しのべることができるのか、ということが全く決まっていない。

第 4 回

- 事例
 - 特定非営利活動法人 集 理事長 川村美津子氏
「地域福祉に根差したNPO活動と農業によるコミュニティービジネス」
- 共通キーワード
 - ・専門化された枠組みの中で、例えば子どもは託児、高齢者はデイサービスなど、利用者が寸断されている。
 - ・目の前に困っている人がいたら、できることはしていきたいが、困っている人はなかなか自分で困っているとは言わない。
 - ・ビジネスモデルを示すことによって、次の世代につなげていく。
 - ・やりたいことがやりたいようにできない中で、農業しかできないのであれば農業を武器にすればよい、という発想が大切。
 - ・机上の話ではなく、具体的な目標を持ち、行政もその中の仲間に入れてしまえば自分事として、もの凄いパワーを発揮することができる。
 - ・制度外やグレーゾーンの人たちの受皿となっている団体があるから地域は成り立っている。
⇒そこに仕事が生まれるように制度化、お金を落としていくような仕組みが必要。

重要なことは「つながり」

詳しくは「滋賀の円卓」で検索